

(要約版)

嗜好品カートの流通 —サナアと地方都市の比較—

助成研究者 大坪玲子 ((東京大学) 文化人類学)

1. 目的

カートは紅海を挟んだ東アフリカとアラビア半島で主に栽培され、その新鮮な若葉を噛むと軽い覚醒作用を感じる嗜好品である。宗教上の理由でアルコール飲料がほとんど手に入らず、また娯楽施設が極端に少ないイエメン共和国では、気の合った友人とカートを噛みながら過ごす午後の数時間は、老若男女の楽しみとなっている。

筆者はこれまでイエメンの首都サナアで消費されるカートについて調査を行ってきた。本研究はこれまで行ったサナアでの調査をふまえ、地方都市ホデイダとタイズにおけるカートの流通経路を明らかにし、サナアの流通方法と比較することを目的とする。

2. 方法

2013年8月15日～9月4日にイエメンに滞在し、サナアではカート市場、生産地を、ホデイダ、タイズではカート市場を訪問し、聞き取り調査を行った。

3. 結果

カートの種類

サナア、ホデイダ、タイズで流通しているカートの種類は大きく異なる。ホデイダ、タイズに比べ、サナアはカートの種類、流通量ともに多い。生産地は、サナアの場合は市内から車で片道 2 時間程度の距離にあるが、ホデイダの場合はそれ以上であることが多く (近い産地市場まで 2-3 時間、遠い産地市場では 5 時間以上)、タイズの場合は 1 時間以内にある。

サナアのカート商人は、自分や消費者の嗜好に基づいて仕入れるカートの種類を変更することは容易であるが、ホデイダ、タイズのカート商人は仕入れるカートを変更することはサナアほど容易ではない。

販売する場所と時間

カートは通常カート市場と呼ばれる場所で、他の商品とは明確に区別されて販売される。カート市場には店舗や露天のように数種類の売り場がある。露天はサナアにはダッカ、ホデイダにはムラッバア、タイズにはサリール、マーサと呼ばれる場所がそ

れぞれある。サナアでは地面に腰を下ろして販売する商人（バッサータ）が多く、市場によっては多くの面積を占めるが、ホデイダでは非常に少なく、タイズでも多くない。

サナアのカート市場は午後 3 時をすぎると客は減り、日が落ちてから販売を続ける商人は非常に少ない。ホデイダ、タイズではカート市場は深夜まで賑わっている。

流通経路とその特徴

サナア、ホデイダ、タイズにおいて流通に介在する商人は 1-2 人であり、「細くて短い」流通経路が形成されている。生産地で早朝に収穫されたカートは、昼前にそれぞれのカート市場で販売され始める。政府や民間企業による介入はなく、大規模化は進んでいない。サナアでは商人は生産地にアクセスしやすく、産地市場が機能し、生産地で数日分の契約を結ぶことも可能である。しかしホデイダ、タイズでは消費地市場でカートを仕入れることができ、生産地で長期契約を結ぶことはない。ホデイダでは運搬を専門にする人が多く、タイズでは生産地や市場でセリが行われている。

信頼関係

サナアは部族的な紐帯が強い地域からカートが供給されているが、商人は部族的な紐帯に縛られずに、むしろカート販売はそのような紐帯がない人に開かれた商売となっている。ホデイダとタイズでは部族的な紐帯は崩壊しているが、サナアよりも地縁血縁関係が有利に働く。この理由は、ホデイダではカートの種類がサナアに比べて少なく、夏季と冬季でカートの種類、流通量、価格が大きく変化し、生産地から遠いために、生産地と地縁血縁関係があると有利に働くことが考えられる。タイズの場合はホデイダ同様にカートの種類が少ないが、ホデイダとは反対に生産地に近く、同郷の商人にしかカートを売らない生産者がいるため、生産地との地縁血縁関係があれば有利に働く。

しかし販売する上で、地縁血縁関係は有効ではない。商売を年長の親族から習え、年長者のコネを多少は利用できるが、それ以外は商人それぞれの局所的知識に基づく。この理由はカートが大規模化に不向きな商品であるという、商品の性質も関係している。